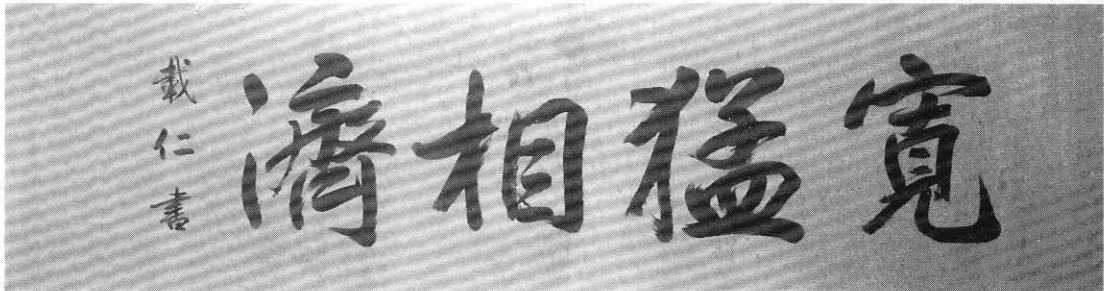


郷土館だより

Vol. 17. No.2

1995. 1. 1



「寛猛相濟」

ことひと
閑院宮載仁親王書

長く郷土館で所蔵していた「寛猛相濟」の偏額が、今年度修復されました。

どのような経過で収蔵されたのか不明ですが、閑院宮家第六代載仁親王の書です。

閑院宮家は、江戸時代、伏見・桂・有栖川と並ぶ四宮家の一つで、四親王家とも呼ばれていました。これは天皇の皇位継承者がなくなった時、四宮家から継嗣を立てる制度でした。

閑院宮家の創立は比較的新しく、新井白石の親王家創立の進言により、享保3年(1718)東山天皇の皇子直仁親王が閑院宮の称を賜わったのが初代となります。

第5代の後、後嗣がなく、明治5年(1872)伏見宮邦家親王の第十六王子が相続を命ぜられ、載仁親王の宣下を受けられました。

親王は、明治～終戦の長きにわたり、軍の要職にありました。大正8年には元師の称号を受けられ、一時引退されるのですが、昭和

6年、陸軍にかつがれ、15年まで参謀総長の職につきました。実権はなかったといわれます。見事な口髭を蓄えていたことから、髭の参謀総長と親しまれました。昭和20年5月81歳で薨去。葬儀は国葬を以て行なわれました。

この書は「寛猛相濟う」と読み、「春秋左氏伝」より採られ、「政治はゆるやかにするところ(寛)と、きびしくするところ(猛)とをうまく調和させて行うべきだ。」の意です。

親王の理想が込められた言葉といえましょう。

載仁親王は、明治中期、三島の楽寿園の地に別邸を構えた、小松宮彰仁親王の弟にあたります。あるいは三島での交流があったのかもしれない。



載仁親王

郷土館企画展（平成6年10月23日～7年1月16日）

三島の石造物 民間信仰

一サイの神・庚申塔・唯念名号塔・徳本名号塔一

サイの神

別名さえの神・道祖神などといい、土地の言葉で「セァノカミ」と呼ばれて親しまれ子供を守る神・道の神として、村境、辻などに祀られています。

主な祭りは二番正月のドンドン焼きで、昔から子供中心に行われてきました。

市内には現在約80基のサイの神があり、形、年代は様々で、双体型、丸彫単体型、光背浮彫型など多種多様です。

確認できるもののなかで造立年代の最も古いのは、一丁田の八幡神社下で貞享三年(1686)、新しいものは三ッ谷の平成四年に造られたものです。現在もサイの神信仰が生きている証拠と言えるでしょう。

庚申塔

市内では約30基が確認でき、多くは文字碑で「庚申塔」・「庚申」などと碑面中央に縦に大書きされています。そのほか、病気を防ぐといわれ「青面金剛」が本尊に祀られる場合もあります。また「申」を「猿」に結び付け、「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿を刻んだものもあります。

庚申講は約二カ月に一度回ってくる「かのえさる」の日の晩に開かれ祈祷をあげ、話しをするのが習わしとなっています。

伝説では「この夜、人が寝ている間に、三尸という虫が人の悪行を天帝に告げ口をするので講を開いて夜明けまで起きて日待ちをする」といわれ、この日を「庚申待ち」と呼んだりします。

石像の今と昔

時折、見知らぬ小路で、苔を身にまとい、面輪に歳月を刻み、静かに佇んでいる石像を目にすることがある。

それは何の神仏で、時代はいつ頃のものだろうと素朴な疑問が湧く、又注意すると市内に案外点在していることにも気付く。

附近の古老に尋ねると、時には個人で祀られているものもあるが、一定の地域、仲間によって祀られ、以前は行事も盛んであったようだ。しかし今では生活の営みとは別に風習を尊ぶ人々のみに託され、地域の習わしとしては消えつつある。

しかし近代化が進むなかでも昔と変わることなく石像は今でも人々の営みを見守っている。ではその石像がかかわった信仰とは何であろう。

信仰に各々由緒いわれがあるが、多くは神社仏閣を有し、歴史的においては時の権力に崇拝され、保護を受け、民衆は神仏によって受けるご利益に集合した。

そうして権威づけられた信仰とは別に、一定の系譜・教派に属さない民衆自らが集落単位で、日常的な生活と結びつけて祀る自由な民間信仰

も盛んに行われた。

時には村境を守る神・子供の神・病気を塞ぐ神・火伏など色々結びつけた。

当時はまだ社会の情報、治安、医療、防火など集落の共同生活を営むうえでも不安は多く、運命共同体である集落は無事を願うために組織される集りの講は今日に比べてはるかに重要であった。

講の構成員は村であつたり、仲間であつたりするが、石像・碑を建て願い祀った。

なお像・碑は何故に石であつたかは示す資料もないが、古来より永久不変で堅く強い石への信仰はあり、それだけ強い願いが表されている。

木に比べ石肌は荒くもろく当時は細工が難しい。それだけに素朴ではあるが作者の心意気が伝わり趣もある。

当市では、石の文化を持つ技術集団、高遠の石工ともかかわりを持つまちでもあります。これを期に皆様の石造物への向学の標となれば幸いです。

唯念・徳本名号塔

「南無阿弥陀仏」と、独特の文字で大書きした6字の名号塔が市内の各所に見られます。唯念名号塔と徳本名号塔です。

唯念上人(寛政2年生、明治13年没)は肥後に生まれ14才で仏門に入り全国各地で修行を積み、更に明神峠下奥の沢(小山町)に籠り厳しい修行をして悟りを開きました。

その地を拠点に、伊豆、駿河を精力的に行脚し教えをひろめ村々では「念仏講」が組織され三島でも盛んに講が行われました。

徳本上人もやはり諸国行脚し、三島でも仏の教を説き足跡を残しています。

幕末から明治の激しい時代であり、民衆は歓呼し向かい入れたと言います。

現在でもお婆さんたちによって継続されている地域があります。

あなたの散策に、今も見守る石造物

サイの神コース(56カ所)

大宮町1	心経寺門前
泉町	国分寺境内
東本町1	言成地蔵境内
佐野山路	村落入口路傍
佐野下村	佐野上バス停三叉路
佐野山崎	入口路傍
佐野藍の沢	山の神山裾
佐野中村	中村橋たもと
佐野古宿	農協北100m曲がり角奥
佐野梨坂	三叉路
佐野梨坂大下	路傍
萩	萩上信号東飯塚氏宅前
萩	萩芙蓉台信号西十字路
徳倉堰	青木橋道上の墓地
徳倉	庚申堂横
徳倉3 寺廓	中村橋先丁字路
徳倉大久保	路傍
徳倉3	中村路傍
徳倉3	谷戸バス停先三叉路
幸原1	農協裏公民館脇
幸原2	耳石神社山裾
壺丁田	八幡神社山裾
下沢地	千枚原への道
上沢地	誓縁寺入口路傍
山田	共同作業所脇
小沢	小沢上路傍
塚原新田	塚原入口路傍
市の山新田	山神社階段上
三谷新田	山神社階段脇
笹原新田	村落入口路傍祠内
元山中	入口農道豚舎前
阿部野	入口豚舎前山側路傍
玉沢	村落入口路傍
竹倉	八王子神社鳥居前
谷田	御門道三叉路
谷田小山	公民館前
谷田夏梅木	公民館先丁字路塀中段
谷田御門	火の見櫓脇
中	本村路傍

北沢	愛宕神社境内
大場	大場神社境内
梅名	右内神社境内
梅名	三組路傍(内野氏塀際)
八反畑	稲荷神社境内
鶴喰	路傍(杉山氏宅前)
鶴喰	秋津氏宅内
青木	観音堂境内
新谷	風間氏宅門前
玉川	バス停南丁字路
玉川	牛頭天王祠前
平山	石川氏宅横路傍
松本	バス停戸田入口脇
松本	下松木バス停前
長伏	泉福寺駐車場脇
御園	蔵六寺入口
安久	安富神社入口三叉路

庚申塔コース(31カ所)

文教町	旧壺丁田入口三叉路
川原ヶ谷	願成寺入口(旧下神川橋際)
大宮町	西福寺境内
日社町	日隅神社境内
東本町	法華寺門内
北田町	福楽院墓地内
佐野下村	佐野上バス停三叉路
佐野古宿	農協北100m曲がり角奥
徳倉3	谷戸バス停先三叉路
幸原	耳石神社境内
壺丁田	八幡神社参道中段
沢地	竜沢寺前神山氏宅路傍
元山中	入口農道豚舎前
山中新田	駒形諏訪神社鳥居脇
笹原新田	一里塚入口国道際
三ッ谷新田	山神社拜殿前左
谷田小山	公民館横
谷田	農協裏佐野氏庭内
谷田	錦田小前道路南三叉路
中	手無地蔵境内
玉川	禅叢寺東50m路傍
青木	周福寺門内
青木	観音堂横
八反畑	稲荷神社境内
長伏	泉福寺門内
御園	蔵六寺本堂前左
多呂	田種寺本堂前祠
大場	光明寺門内
大場	大場駅南踏切東
安久	長福寺門内
安久	杉山舜一氏裏墓地内

唯念・徳本名号塔コース(17カ所)

加屋町	林光寺境内
広小路	蓮馨寺入口
徳倉堰	青木橋上墓地
幸原2	耳石神社境内
沢地	竜沢寺前神山氏宅路傍
山中新田	芝切地蔵境内
塚原新田	宗福寺境内
中	手無地蔵境内
平田	バス停近く西側路傍
安久	持珠院門内
中島	真明院門前
大場	光明寺入口
多呂	田種寺入口
北沢	愛宕神社境内
加屋町	林光寺境内
芝本町	長円寺境内
中	医王寺境内

郷土館講座・郷土教室 小学生の体験学習の報告

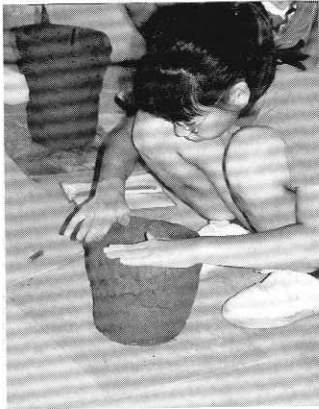
郷土館では、小学生を対象とした体験学習を今年も実施しました。
そのうちのいくつかを紹介しましょう。

■縄文土器作り教室

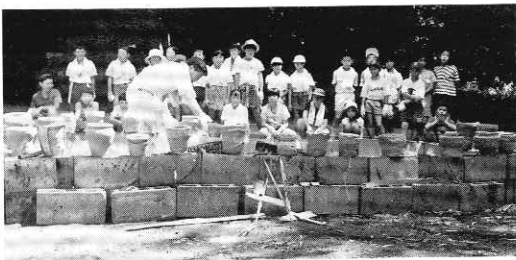
毎年夏休み恒例の行事です。この講座は人気があり、3倍以上の申し込み者の中から抽選で選ばれた市内の小学生（4～6年生）30人が、参加しました。

3回にわたる講座のうち、2時間以上かかる土ねり、粘土を積み上げる根気のいる成形、そしてマキを運んでくべるといふ暑い仕事にたくさんの汗を流しました。焼成の後、灰の中から出てきた土器を見て感激もひとしおのようでした。

（実施日 7月21日「土ねり」
7月23日「成形」
8月24日「焼成」）



粘土の成形



出来上がった土器

■夏の郷土学習

「箱根旧街道を歩く」

指導 静岡県埋蔵文化財調査研究所
主任調査研究員 杉浦幸男 さん



くも助徳利の跡にて



接待茶屋の跡にて

猛暑の中、小学生（4～6年生）26人が、東海道の箱根西坂の、接待茶屋から三ッ谷新田まで、歩き下り、途中の史跡や歴史を学習しました。

途中、杉浦先生が用意したユニークな設問に答えたり、史跡の絵を描いたり、俳句を詠んだり、変化に富む学習で、昔のメインロードの理解を深めました。

特に、あちこちに残る石畳や、最も急な坂…こわめし坂（下長坂）を歩くことで、江戸時代の歩く旅の大変さを実感したようでした。

（8月10日実施）

「郷土教室」

学校休業日（第二土曜）に実施する小学生（4～6年生）を対象とした体験学習の教室です。2学期は3回開催しました。

■「古代の生活を体験」

指導 三島市埋蔵文化財調査整理室

学芸員 池谷初恵さん

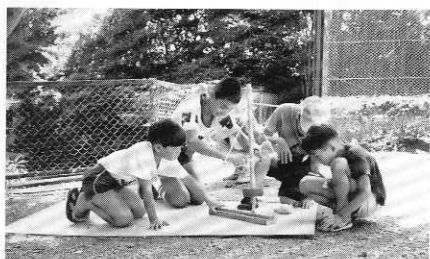
26人の小学生が、興味津津で参加しました。

始めに池谷先生から、大昔の人々の衣・食・住や、その頃の人々の知恵についてお話を伺い、質問もたくさん出て、大昔の生活をかなり理解したようです。

続いて、ビデオで、石器の作り方とその石器を用いての調理の方法を学習しました。

最後に、外へ出て、社会教育課辻学芸員から、舞割り法による火起こし方法の説明がありました。グループに分かれ、実際に火起こしを始めましたが、煙は出るけれど、たね火がつくまではとても大変でした。それでも10人以上が成功し、たき火を燃やして、じゃがいもを焼いて食べることが出来ました。

（9月10日実施）



舞割り法による火起こし

■「昔話を聞いて、農具を使う」

指導 郷土館運営委員 鈴木辰己さん

21人の子供達が参加して、昔の子供達の生活を聞き、農具を実際に使ってみました。

郷土館2階にあるイロリ端に鈴木先生を囲んですわり、おじいちゃんが孫に語り聞かせる趣向で、先生が子供の頃の遊びや、生活ぶり、実際に母や祖母から語られた昔話を次々と語ってくれました。子供達は初めて聞くお話に熱心に耳を傾けていました。

続いて郷土館前庭で昔ながらの農作業を体験しました。刈り取った稲を千歯こきで脱穀

し、扇風機や唐箕で選別します。小さな粃すり機・精米機と一升瓶で粃すりしと精米もやってみました。稲から白米になるまでの過程を体験し、改めて農業の大変さ・有難さを感じたようでした。「農家にお嫁に行きたい」という子もいて、子供達には印象深い一日のようでした。



センバコキを使って

■「紙飛行機を飛ばそう」

指導 竹細工研究家 瀬川到さん



南田町広場にて

17人の子供が参加して、型紙をもとにしつかりした紙飛行機を作り、広い南田町グラウンドで飛ばして遊びました。

苦労したのは、型紙通りに切ったり折ったりすること。出来上がりが心配な機もありました。

瀬川先生が根気よく修正して下さり、飛ばし方のコツも伝授され、始めはストンと落ちていた子が大半でしたが、100m以上飛ばす子も出て来て、楽しい紙飛行機大会となりました。（12月10日実施）

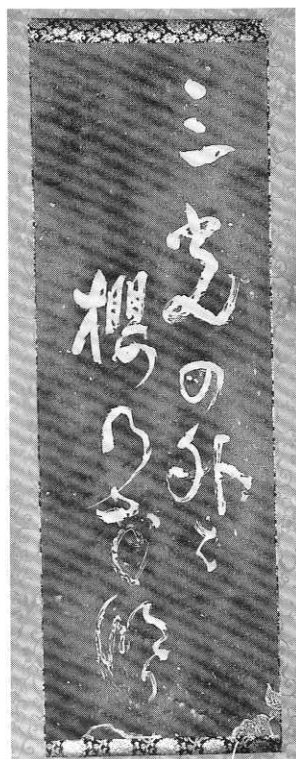
収集資料報告

収集月日	資料名	点数	提供者	提供者住所	備考
H.6.8.10	俳句拓本	1点	柿沼澄子氏	栃木県小山市乙女446	明治期
H.6.8.12	古書(十八史略他)	7冊	大川祝枝氏	三島市加屋町4-36	
々	軍人勅諭	1点	々	々	木箱入り
H.6.8.28	棒秤	1点	佐藤敬子氏	東京都豊島区南池袋3-9-5	
H.6.10.19	駕籠	1点	心経寺	三島市大宮町1-8-15	(松)
々	提灯	2点	々	々	
々	三島駅開業記念提灯	1点	々	々	(銅製)
H.6.12.3	煙草入れ	1点	神山清臣氏	三島市一丁目95	
々	やたて	1点	々	々	
々	十手	1点	々	々	

多くの貴重な資料提供を頂きました。俳句の拓本は企画展「句碑と拓本」に合せて頂いたものです。三島駅開業記念提灯は、今年が丁度60周年に当たる年ということで、時宜を得た資料となりました。また、軍人勅諭は来年度の企画展「三島と戦争展」の好資料となることと思います。



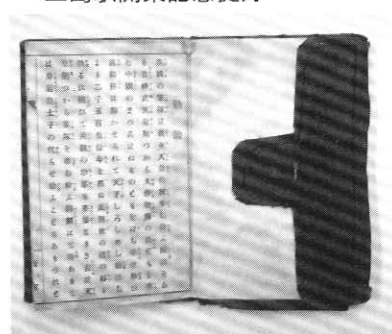
三島駅開業記念提灯



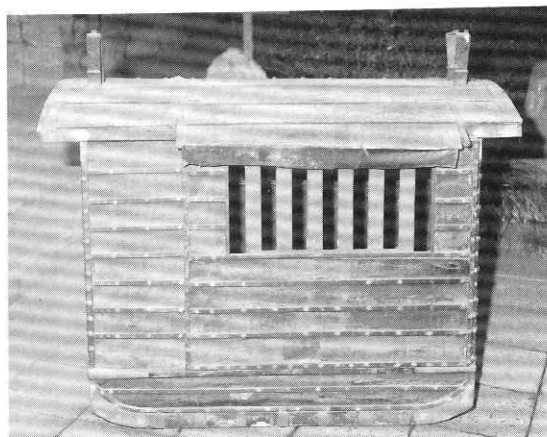
句碑拓本



やたて



軍人勅諭



駕籠(住職はこの駕籠で法事に出掛けたという)

谷田山の沿革について



阿部野路より谷田山を望む

今日、県民総合健康センターが建設される事により、俄に一般市民の間で話題となりつつある錦田地区の野菜生産地帯「谷田山」について少し触れてみたいと思います。

江戸時代、農民は生活苦のなかから山手・野手・鎌役・益役等の名目による税を納め入会地の獲得に努力をしたと言われています。

箱根山は徳川幕府の西方防衛第一線であり、直轄地として葦山代官に管理を任せていましたので、農民は山手米を葦山代官に納め札の交付を受け入会をしていました。

時は明治維新になり新しい制度が次々と施行されるなか、明治6年に至ると土地制度に

「日本政府地券発行」の儀が布告されました。所有権について官民別の地券を土地所有者に交付する旨の内容です。

当時の谷田村・中村・竹倉村にも葦山県庁より通告がなされ、三ヶ村では江戸時代からの入会地である「谷田山」(仙間洞・内割・菖蒲沢・カシラガシ)に対し、民有地なる地券下附方を、葦山県庁を通じ政府に請願しました。処が、梅名村外十ヶ村(中島村・多呂村・北沢村・八反畑村・鶴喰村・青木村・新谷村・玉川村・堀之内村・平田村)からも同様の申出があつたため、三ヶ村は願旨を貫徹することが出来なくなりました。またそればかりか梅名村外十ヶ村と争訴となり長い苦勞の始まりでもありました。

しかし年も経て、時の郡長等による仲裁があり双方和解し示談が成立。「谷田山」は民有地と認められました。総反別176町歩を分割し、80町歩は三ヶ村の所有地、残り96町歩が十四ヶ村の入会地となりました。

谷田山の訟争は実に20年の長きに亘り続けられましたが、この度錦田郷土研究会により「谷田山沿革誌」として小冊子にまとめ発行出来た事は感無量なものがあります。

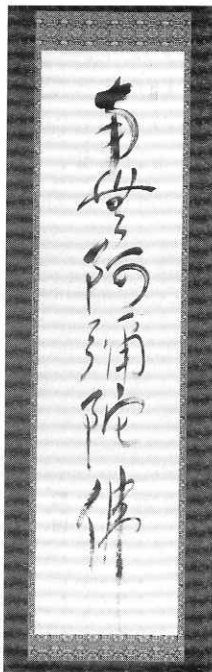
(三島市郷土館運営協議会委員 鈴木辰己)

郷土館資料修復の報告と紹介

平成6年の委託事業で3点の郷土館資料を修復しました。

「三島學」は明治最初の官立学校として開校した小学校の名称で、文字は当時の太政大臣三条実美の揮毫によります。明治期の三島の教育の発展を象徴する本資料が加わる事により、常設展の「明治時代コーナー」が充実できます。

「南無阿弥陀仏」の名号は沢地の龍澤禪寺名僧、山本玄峰老師(1866~1961)の墨蹟です。玄峰老師は紀州湯の峰に生まれ、大正4年、50才の時に三島の龍沢寺に入りました。以来、96才で生涯を閉じるまで、寺の復興と禪の普及に全精力を傾け、その大きな人格は多くの玄峰信者を生み出しました。また、師の墨蹟は、その人柄をしのばせ、魅力ある独特の書体で人々を引き付けました。本資料



山本玄峰老師書

も、機会を見て、郷土館常設展のなかでご紹介したいと考えています。

尚、「寛猛相濟」は表紙にて解説します。

郷土館企画展

三島の成り立ちⅠ
～三島の自然環境・道・歴史～

「私たちのふるさと三島って、どんな町だろう」

三島は、しばしば「水の都」とか「歴史の町」などと称えられます。そこに住んでいる私たちの中にも、心のどこかにそうしたふるさと意識を持っていますが、あらためて考えてみると、三島が「どんな町」なのか、明確には答えられないものです。

そこで、郷土館では、こうした問題を考えるための企画展、「三島の成り立ち」を開催します。三島が、どのような自然環境の上に成り立ち、どのような歴史的環境の下に発展してきたかを、発掘・発見された戦国時代までの文化財や資料等の展示によって概観してみます。

■報 告

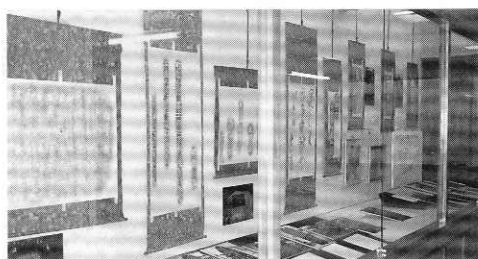
企画展「句碑と拓本展」

県内外の芭蕉を中心とした句碑と歌碑の拓本（故宮治勲氏採拓）と三島市内の文学碑を紹介（拓本及び写真パネル）する企画展「句碑と拓本展」は無事終了しました。

多くの市民が訪れ、市内の文学碑の所在を改めて知られた人がかなりいたようです。

また展示に協力を惜しまれなかった宮治ふみ夫人にも心より感謝申し上げます。

（7月17日～9月11日）



＜企画展入館者数＞

区分	7月(13日間)	8月(27日間)	9月(10日間)	合計(50日間)
学生(小中高)	640	2,830	450	3,920
一般(個人)	1,640	4,560	1,230	7,430
団体(30人以上)	(3) 250	(7) 355	(4) 338	(14) 943
合 計	2,530	7,745	2,018	12,293

企画展概要

主 催 三島市教育委員会（郷土館）
開催期間 平成7年2月26日～5月7日
会 場 三島市郷土館 1階展示室
展示内容

タイトル

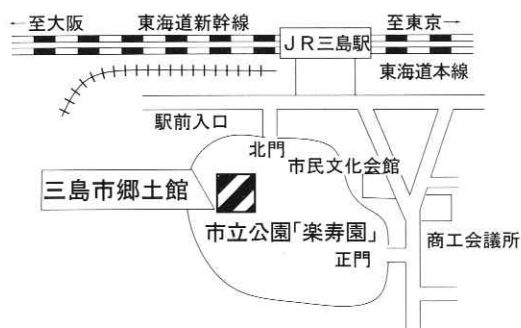
「三島の成り立ちⅠ」

コーナー

- (1) 三島の自然環境
- (2) 古代のくらしと人々
- (3) 町の形成
- (4) 三嶋大社と三島の成立
- (5) 三島の発展と文化

利用案内

休 館 日 毎週月曜（祝日の時は翌日）
12月26日～1月2日
開館時間 午前9時～午後4時30分
入場無料 （但し、楽寿園入場の際、有料）



三島駅（南口）から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土館だより No.50

平成7年1月1日発行

（年3回発行）

編 集 三 島 市 郷 土 館
住 所 〒411三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 0559-71-8228
FAX 0559-81-3730
発 行 三 島 市 教 育 委 員 会